

会 議 録

会議の名称		令和6年度第3回大穂学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和7年（2025年）2月19日 開会 15:00 閉会 17:00		
開催場所		大穂交流センター		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	古谷野 好栄、諏訪 優子、染谷 強、中島 肇 大塚 一浩、渡邊 伸一、小林 正信、小林 由二 村上 義孝、塚本 正人、中島 武夫 小野 泰宏、軍司 絹子、大塚 貴文 山崎 由美子、濱田 優子 大曾根小学校：勝村 和之 校長 前野小学校：村野 守司 校長 大穂中学校：久松 和則 校長		
	その他	大曾根小学校：輿水 浩美 教頭 前野小学校：坂入 洋子 教頭 要小学校：大谷 順子 教頭 吉沼小学校：坂本 修 教頭 大穂幼稚園：山本 光明 園長		
	事務局	生涯学習推進課：係長 飯島 遊 生涯学習推進課：地域連携教育指導員 酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開
非公開の場合はその理由		傍聴者数 0人		
議題		1 令和6年度学園評価について 2 令和6年度学校評価について 3 令和7年度について		
会議録署名人		確定年月日 令和7年 月 日		

会議次第	1 開会 2 会長挨拶 3 前回の議事の確認 4 大穂幼稚園園長紹介 5 大穂幼稚園園長挨拶 6 協議 (1) 令和6年度学園評価について (2) 令和6年度学校評価について (3) 令和7年度について 7 その他 8 閉会
<審議内容> 1 開会 2 会長挨拶 3 前回の議事の確認 挨拶運動を行った。 第2回会議時に未開催だった大穂中学校より報告。 ・挨拶運動を兼ねて交通整理を継続的に行っている。 4 大穂幼稚園園長紹介 5 大穂幼稚園長 山本様 挨拶 ・園児数が減少方向にありPTA活動なども縮小傾向にある。 ・来年度大穂幼稚園をCSに参加できるように検討してほしい。 ・地域で子どもたちを見ていける環境を構築したい。 6 協議 (1) 令和6年度学園評価について 大曾根小学校 ・アンケートより児童生徒が回答1、2と80パーセントのあてはまるにしていることから、学校との指導が理解されていると感じた。 ・保護者も同じくらいのパーセントですが2の回答が多いが、子どもからの印象から推察しての回答だと考えると高い水準かと思う。 前野小学校 ・全体の状況と比較して大きな乖離はない。 要小学校 ・概ね、評価は高いのではないか。	

吉沼小学校

- ・児童生徒評価のQ 2・6・8・9の結果については、保護者評価と整合性がとれているので、正確な評価と考えられる。
- ・保護者評価のQ 1の結果については、学園全体で力を入れて取り組んだ成果が見られない。評価結果があまりよくない。
- ・学園ランドデザインはもとより、どの学校も授業力向上に努めてきたのだから、児童生徒の評価項目に、「先生の授業は分かりやすい」というような質問が欲しかった。

大穂中学校

- ・大穂学園と比べ、大穂中も良い傾向があるので、先生方ががんばっていてくれていると思います。

(2) 令和6年度学校評価について

大曾根小学校

- ・学園アンケートと同じくパーセントが高く子どもたちと学校の指導が良く理解できていると感じました。
- ・また、学校側より授業中も落ち着いて取り組んでいるとのお話があり、いつでも気軽に来校して確かめてくださいとの事でした。
- ・個人的な相談には教頭先生が把握し、難しい判断時には校長先生と連携を図るなど細やかな対応もお話していただきました。

前野小学校

- ・子どもたちの思いを保護者に積極的に伝えていくことが必要と感じた。

要小学校

- ・挨拶についての設問、児童の回答が45→58に大幅に改善した。
- ・挨拶については、交通安全協会などにも協力を依頼できるのではないかな。
- ・朝の時間は、どうしても忙しい方が多いので一般への声かけは簡単ではないのでは。

吉沼小学校

- ・学校より学校評価の分析結果の説明をいただき、成果と課題等を確認する。
- ・7月と1月の保護者評価の結果を比較し、評価結果が一段と向上したQ 5・6・12・15に係る学校の取組（教育活動の検証）を紹介していただく。
- ・児童と保護者の評価結果に課題が見られる内容について意見の交換を行う。

- ・現状の課題を出し合い、P T A活動の今後の進め方について意見の交換を行う。

大穂中学校

- ・家庭学習に取り組んでいるか。授業を楽しみにしているか。小中一貫教育の取り組みはなされているか。夢や希望が持てるか。などの結果を見ると改善していかなければならない。
- ・教師は、いじめを許さない心やルールを守る態度を育成しているか？の問いにはほとんどの生徒が理解し、意識してくれている。という説明で安心できました。

(3) 令和7年度について

大曾根小学校

- ・C Sの活動も本格化するにあたり、学校ボランティア募集紙の（ちょこボラ）内容確認。
- ・C S予算についての検討、それに伴いボランティア保険加入、ビブス購入、くすの木隊備品購入の話し合いがなされた。
- ・学校より今後のボランティア活動で学校マラソン時、草むしり、廃品回収の提案がなされたが、現在のP T A活動との住み分けを考えながら協議していく。
- ・ボランティアは、研修、説明会をへて学校長の許可をもらう事とする。
- ・C Sボランティアの調整として、L I N Eグループ作成やチャットワーク等を利用し情報交換をはかる意見が出された。

前野小学校

- ・コミュニティ・スクールというワードを広めるのではなく、保護者と児童、地域の方と児童のふれあいの機会を増やし、小学校との関わりを増やす活動を行っていく。

要小学校

- ・C S予算を活用して有償ボランティアの活用、挨拶運動にキャラクターなど着ぐるみと呼ぶことができるのではないか。
- ・草刈り、花壇整備など環境美化活動についても、うまく活用できると良い。
- ・消防団など地域のボランティア活動も、声かけすると良い。
- ・社協のふれあいサロン、区長会なども協力呼びかけが可能ではないか。
- ・広報、チラシの作成、配布も検討するとよい。

吉沼小学校

- ・学園内の学校の先行事例（前野小学校）を参考にさせていただき、地域人材の確保に向けてのネットワークづくりに力を入れていく。具体的には、地域内で活動されている団体等の代表者を招いたネットワーク会議を学校で開催し、「（仮称）学校地域協働活動推進部会」を立ち上げていくか、今年度の持久走記録会のように、地域学校学校協働活動推進員が学校のニーズに応じ関係者の戸別訪問を通して学校と代表者（団体）を繋いでいくか、そのいずれかの方法により推進する。
- ・大穂学園CS活動の2年間の成果（短期的成果）を共有し合い、令和7年度も学園全体（4小1中）で協力して取り組んでいきたい。中心となって活動される役員の皆様にはお世話になります。

大穂中学校

- ・今までの予定どおりボランティア活動の年間スケジュール表を作り保護者、地域に配りスケジュール表に沿って、活動ごとに改めてチラシで募集します。
- ・第一に花壇整備を生徒たちを含めて始める。

大穂幼稚園長 山本様より

- ・次年度に向けて課題を探して活動をしていく。
- ・ホームページなどを活用して活動内容について知っていただきたい。
- ・次年度よりCSの会議に入れていただき情報交換をしていきたい。

会議数について

- ・次年度より全体会議は年2回の会議とする。
- ・各学校ごとに話し合いをする機会を増やしていただく。

SNSの活用について

- ・チャットワークを基本の情報交換ツールとしたい。
- ・LINEグループを作成し情報交換を行えるようにしたい。

次年度会長・副会長の選出方法について

- ・継続して現会長と現副会長が推薦された。
- ・書記を設けたい → 村上委員に御対応いただくこととなった。

7 その他

大穂中学校より

- ・つくば市教育委員会が、発行しておりますコミュニティ・スクールとはという資料に、なぜ、コミュニティ・スクールを導入するのかそれは「近年、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化、多様化するなかで、今後、学校と地域がより一体となって特色ある学校づくりを進めるために、コミュニティ・スクールを導入していくこ

ととなりました。」とあります。そしてつくば市が目指すコミュニティ・スクール、とは「つくば市では、各学園・各義務教育学校に1つのコミュニティ・スクールを設置します。学校、地域、保護者、行政が一体となり、それらの学びをさらに支える横につながる小中一貫教育を目指し、コミュニティ・スクールを導入していきます。」とあります。

文章の中に「学校、地域、保護者、行政が一体になり、」とありますがこの行政とは何を指しますか、そして一体になる、とはどういうことでしょうか。

事務局 → 予算を付けたり、皆さんの相談にのったりすることで、コミュニティ・スクールの会議や活動がスムーズに運営できるようにサポートしていくということです。

- ・「学校、地域、保護者、行政」とあります。地域とは地域住民のことだと思います。行政のみなさんもつくば市役所の皆さんもつくば市にお住まいなら、地域住民だと思いますし、コミュニティ・スクールを一番理解していると思いますので、私たちよりも積極的に活動するという事は当然なことだと思いますが、いかがでしょうか？

事務局 → 市に戻って伝えます。個人的にはそうあるといいと思います。条件が合えば活動に参加していきます。ということでした。

吉沼小学校より

- ・CS協議会に関するアンケートについて結果を教えてください。
→ LINEグループで結果を公開します。
- ・地域人材の協力体制の取り組みについて具体的な活動内容について教えてください
→ 前野小学校より
地域学校協働活動推進員を中心に様々なグループにお声掛けいただき、挨拶運動に参加していただいた。
- 大曾根小学校より
地域交流の対応について、学校が担うことと地域の方が担うことの洗い出しをおこなった。その中で、的を絞って対応を行っていかうという結論に至った。

令和6年度第3回大穂学園コミュニティー・スクール協議会

日時:令和7年2月19日(水)

15:00~16:30

場所:大穂交流センター

次 第

1 開 会

2 会長挨拶

3 前回の議事の確認

4 大穂幼稚園 園長紹介

5 大穂幼稚園 園長挨拶

6 協議

・各学校間による協議

①令和6年度 学校評価アンケートについて

②令和7年度に向けて

7 その他

・次年度に向けた提案について

・事務局より諸連絡

8 閉 会

会 議 録

会議の名称	令和6年度第2回大穂学園コミュニティ・スクール協議会			
開催日時	令和6年(2024年)11月5日 開会15:00 閉会16:30			
開催場所	大穂中学校 被服室			
事務局(担当課)	教育局生涯学習推進課			
出席者	委員	古谷野 好栄、諏訪 優子、染谷 強、野澤 洋夫、中島 肇、渡邊 伸一 小林 正信、小林 由二、藏持 正則、菊田 康人、川根 義行 塚本 正人、中島 武夫、小野 泰宏、大塚 貴文、清水 大 山崎 由美子、濱田 優子 大曾根小学校：勝村 和之 校長 前野小学校：村野 守司 校長 吉沼小学校：大越 茂 校長		
	その他	大穂中学校：鈴木 英理 教頭、渡邊 久美子 教務主任 大曾根小学校：輿水 浩美 教頭 前野小学校：坂入 洋子 教頭 要小学校：柴崎 則史 教務主任 吉沼小学校：坂本 修 教頭 つくば市社会福祉協議会 大塚 健吾		
	事務局	生涯学習推進課：参事 山口 健次 ：課長補佐 瓜阪 恵理名 ：係長 飯島 遊 ：社会教育主事 村上 和宏 ：地域連携教育指導員 酒井 和宏		
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 0名
非公開の場合はその理由				
議題	1 あいさつ運動 10月～1月までの各校の取組について 2 各学校の課題について			
会議録署名人		確定年月日	年	月 日
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 前回の議事の確認 4 オブザーバー紹介 5 オブザーバー挨拶 6 事務局より諸連絡 7 協議 (1) 「①あいさつ運動 10月～1月までの各校の取組について」 (2) 「各学校の課題について」 8 その他 9 閉会			
<審議内容>				
1 開会				
2 会長あいさつ 本日、大曾根小ではあいさつ運動が無事に終了し、15名程度の役員で行った。今後につな				

がる活動ができた。午後は、学校の状況を確認させていただいた。あいさつ運動をどうするかではなくあいさつ運動を通じて、今後、学校を主とした協力体制がどのように作っていただけるかについて、第3回コミュニティ・スクール協議会や令和7年度に向けて実りのある話ができればと考えている。また、各学校でどんな子どもたちを育てるかの他に、学校の困りごとや苦慮しているところ、どんなところを学校で手伝ってほしいかについてアンケート調査を行った。今日だけで決めるのではなく、熟議をして、各学校でどこができるかのすり合わせを第3回コミュニティ・スクール協議会、令和7年度に繋げていきたい。

3 前回の議事の確認

- ①委員の自己紹介から会長、副会長選出
- ②学校グランドデザイン説明と教育活動紹介
- ③協議「昨年度までの活動を生かした、今年度の流れについて」

(1) スローガン決定

「地域で育てる学びの場 大穂学園コミュニティ・スクール」

大曾根、前野、吉沼であいさつ運動を行った。のぼり旗は子どもたちがコミュニティ・スクールの活動として、認知しやすかった。スローガンを確認してほしい。

(2) 「あいさつ運動」について

11月中、全校で行う。ホームページに掲載していく。

4 オブザーバー紹介

つくば市社会福祉協議会 大塚 健吾 様

5 大塚様あいさつ

6 事務局より諸連絡

7 協議

(1) あいさつ運動 実施済みのところに関しては感想をお願いします。まだ実施していないところは、今後の予定について御発表ください。

・大曾根小

20名弱参加（学校関係者、地区委員、区長、シルバー、地域住民の方）。

取材があった（フリーペーパー、ACCSなどの動画）。

7時20分～7時50分に、4、5人ずつで場所を分けた。

知ってもらうことが大切。次回、1月28日に会議を行う予定。

・前野小

協力してもらいたいこと

登下校の見守り、あいさつ運動、地域との連携

スクリレとPTAのLINEで各家庭にお知らせを出した。登校しながらあいさつを行った。大きい道路のところで行われていた。学校に集まって写真を撮るなど記録を残した。

・要小

今日、13:00に体育館で1～6年生対象にあいさつの良さを知らせる寸劇を行った。今後はあいさつ運動を実践していく。

・大穂中

あいさつ運動はこれから（11月11日）だが、青少年相談員、民生児童委員の方が月曜日にあいさつ運動をしている。自転車での登下校が心配という意見があったので、交通安全や見守りを兼ねて行っている。大穂中独自のチラシを作成（民生委員やくすのき隊、安全会の方が子どもたちに係る活動内容が記載）。11/1に大穂地区に回覧。

・吉沼小

特別なこととして行わず、普段子どもたちが行っているあいさつ運動にかぶせるような形で全職員が参加して行った。コミュニティ・スクールの周知が目的なので、のぼり旗は複数本あると良い。吉沼小は保護者送迎が約3割いるため、目にする機会をもつ

と増やしたい。本日の取組みは学校のホームページに掲載して周知する。

(会長より) なぜ熟議をするか。学校が楽をしたいからではない。コミュニティ・スクールのメンバーが分かって、周囲に声掛けをしていく。どのような子どもたちを育てたいか、建設的に、実行性があるものを作っていく。働き方改革の中で負担にするのではなく行っていきたい。

(2) 学校の課題について

(アンケートをもとに話し合い)

・大穂中

登下校の見守り、あいさつ運動、学校行事の手伝いの募集のチラシを作成した。年数回に分けて募集をする。集約をするのは、学校の力を借りた方がいいのではないか。

・吉沼小

①登下校の見守りについて

登下校の見守り（特に下校時を中心に）体制をどのように構築していくか（一番難しいところ）。下校の地区のポイントを一カ所挙げて、月～金でできるところに○をつけてもらう。各代表の方がたくさんいるので、幅広く展開していきたい。引き続き話し合いを行っていきたい。前野小のやり方を参考にしたい。

②地域と連携した授業展開

10月初旬から地区の回覧板を通して人材バンクの登録を行っている。現在10名程度応募があり、すでに授業の支援に入っている。（調理実習等）

今後はそろばんの学習などに入っていく予定。

③グラウンドの環境整備等

芝産業に従事している地域の方へ声をかけていく予定。作岡小で事例があった（定期的に環境整備）。

・要小

本日寸劇を行ったので、次はあいさつ運動を行う。12月9日（月）7:30～7:50 区長会、シルバークラブに声をかけていく。手探りの状態で行っていく。

・前野小

登下校の見守り、あいさつ運動は、地域にもともとある組織の協力を意識することで、組織的な展開ができるのではないかという反省が出た。組織のリーダーとの話し合いをもっていく。学校行事なども、オブザーバーの協力を得ながら、シルバークラブなどと、レクリエーションなどを行っていくと地域との連携ができるのではないか。今年度中に準備をしていく。

・大曾根小

1月28日コミュニティ・スクールの報告会を行う予定。地域シルバークラブ、区長、教員のOBの方々を呼んで、地域ができること、学校が望んでいることを話し合いたい。

(会長より) 各学校の課題について動き始めている。ここにいる我々が協力してほしいと声を掛けた時になかなか人が出てこない時に、どうするか。各学校でも考えていけると思うが、手伝いたいという気持ちは共感から来る。現場（学校）にいて、子どもたちの教育がどこまでできているか、困りごと、教育の手がまわらない、人手不足など。学校と他の企業との違いは、教育は次世代を育て、地域に根ざしていくことである。各学校で共感してもらえるような活動が大事。コミュニティ・スクールが大変になり、「みんな、どうして来ないのか」とならないようにするためには、持続可能な活動が求められる。創設初期の最初は、ある程度手伝いたいという方に少数でも声をかけ、手伝ってくれる人を増やしていくことで持続可能な活動になっていく。コミュニティ・スクールのメンバーが学校の困りごとを分かりやすいように認知して伝えていく。スモールステップで積み重なっていくように、一番近くの

サポーターになっていければいいと思う。着実にスモールステップでできている。第3回で令和7年度に繋がっていく。

アンケートで各学校の課題を挙げてもらった。一番多いのは、登下校の見守り、地域との連携でした。地域との連携をして何をしてもらいたいのか、何をしていきたいのか。CSがそこに耳を傾けていく。(ミシン、調理実習、町探検の同行)吉沼小学校の既存の組織がしっかりしているので、グラウンドの整備など、おやじの会の活動がある。PTAとの兼ね合いになる。PTAは任意の参加になり、PTAの組織がなくなっていくことを視野に学校をどうやって運営していくのかというところでこのCSができていると認識している。PTAがなくなっていく可能性があることを視野に入れて、学校の先生と進めていく。

8 その他

- ・事前に資料はいただけないか。
→(会長)次からは早めに出したい。
- ・費用の内訳は年度末に出るのか。
→(事務局)年度末に示すことは可能。

学校運営協議会消耗品 1校につき1万円。

地域学校協働活動消耗品 1校につき5千円。

のぼり旗 34,540円

飲み物代 18,000円

郵便料 10,080円

- ・次回 令和7年2月19日(水)15時00分から
場所 大穂交流センター

9 閉 会

コミュニティ・スクール協議会(推進会議)に関するアンケート(学園名:) どちらかに○(地域住民・教職員)

項目	あてはまる部分にチェック(○)を入れてください	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまらない	あてはまらない	判断できない
1	学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員(推進会議の構成員)による議論を行う					
2	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある					
3	教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある					
4	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある					
5	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある					
6	協議会(推進会議)内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある					
7	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている					
8	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある					
9	協議会(推進会議)で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることもある					
10	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある					
11	協議会(推進会議)で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある					
12	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている					
13	議論の結果、各主体(学校・保護者・地域の大人等)が実行すべきこと・役割分担が明確になっている					
14	学校の問題や悩みは、協議会委員(推進会議の構成員)の中で共有されている					
15	協議会(推進会議)での協議内容について、十分な情報発信が行われている					
16	当事者意識をもち、学校運営に参画したと感ずることができる					
17	協議会(推進会議)への参加回数をご記入ください					回
18	その他 ご意見があればご自由に記入してください(裏面もご使用ください)					